

●第3回「新たな学校づくり・社会教育施設づくり検討委員会」が開催されました！

第3回検討委員会では、①学校施設の複合化・共用化や学びの変化に対応した教室のあり方②避難所や来校者の視点からの学校のあり方に関する意見交換③事務局より学校図書館等に関するワークショップの報告などの検討と意見交換をいたしました。

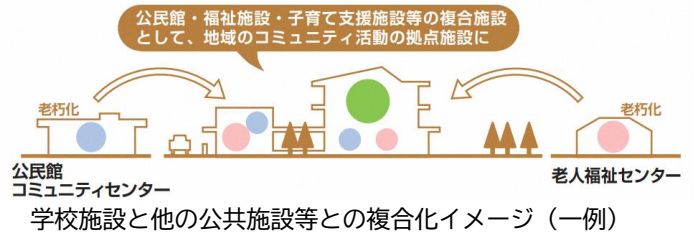
【第3回検討委員会に関連する論点】

- 2) 新しい学習形態に対応した学習環境 ICT、教室空間、収納、オープンスペース など
- 3) 児童・生徒の特性を踏まえた多様な環境 インクルーシブ、特別支援教室、クールダウンスペース など
- 5) 学校教育を深化・充実するための特別教室 学校図書館 など
- 7) 複合化・共用化も見込んだバリアフリー化 地域開放施設としてのバリアフリー化
- 8) 学校と地域をつなぐ、現実的かつ効果的な複合化・共用化 セキュリティ、管理・運営体制 など
- 9) 避難所としての学校施設 災害リスク、体育館、バリアフリー、セキュリティ、管理・運営体制 など

※各回の検討は「10の論点」を基本として進めております。第1回資料をご参照ください。

●学校施設の複合化・共用化のあり方

学校・地域双方にとってメリットのある学校施設の複合化・共用化について検討しました。地域の方々による放課後の居場所づくりや教育活動への協力などその有効性が語られた一方で、施設の利用管理運営や安全対策の視点において、学校や地域全体で共に動けるような仕組みや組織（例：地域学校協働本部など）の設置など、ソフト・ハード両面で運用していくことが必要とのご意見をいただきました。



【出典】検討委員会第3回_資料1-1より

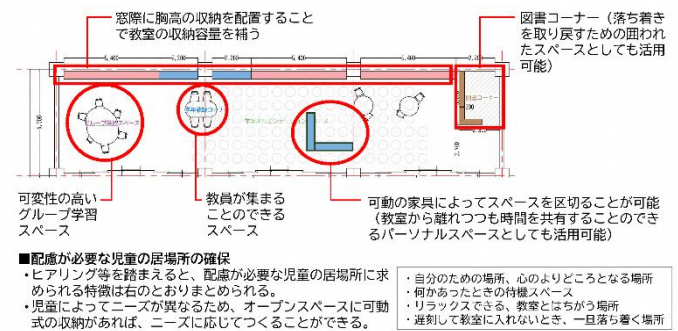
●学びの変化に対応した教室のあり方

普通教室における「教科書・ノート・タブレットを置く新JIS規格の机の導入」や「教室や廊下を広げたオープンスペース」など、これまで検討委員会で意見交換された重要課題の1つである「多様な学習空間のあり方」について事務局（ワーキンググループ）で検証し、検討委員会にその案を提示しました。

学校施設の長期的な運用を見据え、教室や廊下、収納家具類ともにフレキシブルな学習環境を整えていくことが、これからの学校に求められる学習スペースではないかとのご意見が多く出ていました。



通常学級の空間のあり方（案）



廊下兼オープンスペースの空間のあり方（案）

【出典】同資料2-8、2-11より

一方、特別支援学級については、知的固定級/情緒固定級それぞれに在籍する子どもに応じた空間が求められています。前者では一人ひとりの子どもの学習や生活に適した教室であること。また後者では、子どもが落ち着き集中して学習できる環境づくりを基本とする検討方針を事務局よりお示しました。委員からは学校全体としても、様々な子どもの特性に対応できる機能が不可欠であり、支援が必要な子どもが、本人の希望に応じた学級で学びが実現できるように、通常学級における学習環境を充実すべきだというご意見が出ていました。

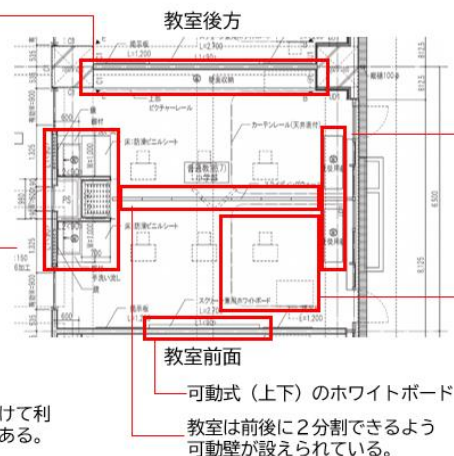
■知的固定級の空間のあり方の事例（都立特別支援学校の教室を参考に）



教室後方は全面が収納となっている。児童・生徒のケガを防止するため取っ手などの凸部はない。



教室内に流しが置かれており、前後に分けて利用する場合も両方で利用できるよう2つある。



【出典】同資料2-15より

●学校図書館等に関するワークショップの報告

令和5年7月から12月にかけて、放課後子ども教室（ひのっちなつひの/滝合小学校）や日野第一小学校、日野第三中学校の計3校を対象として、児童生徒向けのワークショップの開催や総合的な学習の時間を活用した意見交換を行いました。

各校において子どもたちの「お気に入りの場所」や「ちょっと苦手な場所」を把握した上で、日野第一小学校では「つなげよう、私たちの日野一小」をテーマ

として、みんなにとっての学校や今後の学校施設の改善点（アップデート）について、また日野第三中学校では、今の図書館の使い方と理想の図書館の姿について意見交換をし、模型を何度も動かしながら各教室の配置などをまとめ、その成果を児童生徒からの提案・意見として検討委員会に報告いたしました。

この取り組みについては、「ひのっ子きょういく3月号」に掲載予定です。ぜひご覧ください。

日野第三中学校におけるワークショップの結果

- 「学校にこんな居場所がほしい！」
- 読書スペース、フリースペースに関する意見が比較的多かった。
- 読書スペースでは1人になりたいときに使うという意見のほか、息抜きのための機能を付与したいという意見もあった。
- 余裕のある廊下・階段については、様々な交流や荷物の収納に使える点が評価された。
- ベランダやテラスについては、開放感にくわえて、大人で集まるのがイメージされていた。
- ホールについては、事例が木質空間であったことから、木のぬくもりが感じられる点が良いという意見があり、場所によって仕上げを変えることで気持ちに変化が生まれることが指摘された。

【出典】同資料3-4より

●避難所や来校者の視点からの学校のあり方

平時・緊急時を問わず誰もが学校施設を訪れ、利用できるアクセシビリティの観点を重視する方針をお示したところ、避難所運営も見据えたバリアフリー化の必要性や、様々な障害に対応したインクルーシブな学校づくりの必要性などについて、多様なご意見をいただきました。

この検討委員会の後、令和6年1月に石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する地震が発生。多くの建物が倒壊し、土砂災害を含め甚大な被害が確認されています。県内における学校は避難所として開設され、現在も多くの地域住民が避難所生活を余儀なくされています。また3学期の始業式が2週間近く遅れ、学校がようやく再開される地域がある中において、避難所としての学校施設のあり方や、いざという時の備えなどについても、引き続き検討委員会で議論してまいります。

●第3回検討委員会における意見交換の様子

意見交換における主な意見

地域の方々も様々なノウハウを持っており、学校に講師に来ていただけるかもしれない。

子どもに様々な体験をさせたいが、資金や人的ネットワークの面で難しさがある。

資金や人材、情報面も含めて地域で立ち上がった組織（例えば「地域学校協働本部」など）がマネジメントしてくれるとよい。

教室を大きくするだけでなく、教室と廊下との壁をなくすることで対応できる可能性もある。

改築する学校だけでなく、既存の学校のバリアフリー化を図ることも重要。

基本的条件整備がなされれば、身体障害をもつ子どもたちの大部分を通常学級で受け入れられる。

あらゆる災害弱者の課題を意識し、あらゆる人の抛り所とすることが重要。

学校での医療的ケア児の受け入れについても議論すべき。

避難生活に必要な設備・備蓄についても検討すべき。



●市民の皆様からご意見を引き続き募集しています！

日野市教育委員会では、新たな学校づくり、社会教育施設づくりに対するご意見を市民の皆様より募集します。「●●な学校であってほしい」「もっと地域のみんが利用できる学校であるといいな」など、学校施設の機能や利用についてのお考えをぜひお寄せください。

ご意見は URL または二次元コードからアンケート回答フォーム（ロゴフォーム）にてお寄せください。 URL:<https://logoform.jp/form/Z9UK/376471>

二次元コード



●市民から募集した意見について

第3回検討委員会（12/15）までに、計47件の意見が市民の皆様より寄せられています。ご意見は検討委員会の検討（資料）及び今後の計画策定に向け、意見反映してまいります。

【これまでに寄せられた市民の皆様からの主なご意見】 1月末現在 計47件

- ・地域の居場所の一つとして、様々な属性の人が放課後の見守りなどにも参加して欲しい。
- ・時代の流れや個人の特性にフレキシブルに対応した学習スタイルを柔軟に迅速に対応してほしい。
- ・公共施設として図書館の資料を活用しながら、学習できるスペースがほしい。
- ・子どもの個性が引き出され、魅力ある大人に育つような学びができる学校作りをお願いしたい。
- ・バリアフリーの環境の整備、エレベーターや車いすでも入れるトイレは各学校常備されているといい。
- ・パニックになった時に、落ち着くためのスペースの設置など障害特性を踏まえて設備を整備すること。
- ・自分の考えを伝えられるようになるディスカッション等の授業や空間。
- ・小中学校の温水プール及び屋内プールの実現を強く求めます。

●発行者：日野市教育委員会庶務課 新たな学校づくり担当 ●住所：〒191-8686 日野市神明1-12-1

●連絡先：電話：042-514-8698 ファックス：042-583-9684 Eメール：ksyomu@city.hino.lg.jp